

# 「藤樹紙芝居」を使った道徳性を養う指導展開プラン(その③)

思想普及委員会

## 1 主題 (子どもに身につけさせたい内容)

「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」  
道徳的価値： 高学年 希望と勇気、努力と強い意志

## 2 紙芝居題

藤樹紙芝居⑨ <熊沢蕃山の入門>

## 3 主題に迫る

高学年になると、「何でも自分たちでやりとげなければならない」と考え、それに向かい努力する姿がみられるが、残念なことに長続きせず、目先の変ったものへと興味が移っていく傾向にある。また、頑張ろうと努力するが、不得意なものは人任せになってしまい、都合のよい楽な道を選ぼうとするのもこの時期の特徴である。

そこで、はるばる藤樹先生を慕ってやってきた蕃山が門前に座り込んで一夜を明かし入門しようとする逸話をとおして、どんな困難も乗り越えていくという根性を培うこと、そして、その困難を乗り越えた時こそ、希望や目的が達成でき、心から喜べるということを学ばせたい。

## 4 紙芝居の概要

蕃山は、16歳の時、備前藩主の池田光政に仕えたが、4年後に、自らの未熟さを知り、修学のために実家の近江の桐原で師を探しながら、独学自修していた。立派な師は見つからず悩んでいたところ、たまたま京都の宿に泊まったときに、「大変立派な先生が小川村におられる」ことを知り、弟子にしてもらうために先生を訪ねるも断られたが、諦めることなく、時を経て再度弟子入りを懇願した。二回目には、藤樹先生の家門前に昼夜を問わず2日間正座をし、やっと弟子にしてもらった。事情により、対面して先生から学んだ期間は8ヶ月足らずであったが、その後は、桐原で家族を養いながら書簡をとおして門弟関係を続けながら、先生の学問や人としての生き方を学び取った。

実力を付けた蕃山は、再び備前藩の光政に仕え、治水工事や学校づくり等々を進め、民が幸せに暮らせる国づくりを考え、すぐれた政治を行った。

## 5 指導過程

展開のしかた	問いかけ	留意点
<p>1. 資料(紙芝居)の題名を知る。</p> <p>2. 紙芝居の上演を視聴して話し合う。</p> <p>○熊沢蕃山は、どのような人だったのでしょうか。</p> <p>○どのようなことで凄い人だと思いましたか。</p> <p>○門前に座っているとき、蕃山はどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>○藤樹先生は、なぜ蕃山の頼みを受け入れなかったのでしょうか。</p> <p>○蕃山が藤樹先生の弟子になれたのはどうしてでしょう。</p> <p>○再び光政に仕え、民のためにどのようなことをしたでしょう。</p> <p>3. 学習をとおして、学んだことを話し合う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>池田光政に仕えていたこと、真の実力をつけるため仕事を辞めて自学自習する強い人、凄い人等々発表させる。</li> <li>賢いのにさらに学問しようとしたり、弟子にしてもらうまで一夜を明かし門前に座り込んだりするなどの具体的な言動を発表させ、蕃山の熱意と努力を感じ取らせる。</li> <li>師はこの先生しかない。何が何でも立派な藤樹先生の弟子にしてもらえるまで頑張ろう。</li> <li>藤樹先生の謙虚な人柄、偉大さを感じさせる。</li> <li>目標を持ち困難に打ち勝ち、努力をし続けた蕃山の熱意を感じ取らせる。</li> </ul>